

説 教

聖日礼拝

北浜チャーチ

2022年3月27日(日)

主 題：「命令は重荷ではありません」

—神の愛—

テキスト：第1ヨハネの手紙2章3～6節

はじめに

- ・使徒ヨハネは第1ヨハネの手紙1章において、「神は光であり、神には闇が全くない」と語りました。そして、御子イエス・キリストの十字架の御血によって、罪が赦されるという「グッド・ニュース」(福音)を説きました。
- ・イエスの十字架の御血によって罪が赦された人こそ、まことのキリスト者です。その人は「光の中を歩む人」です。
- ・そして、ヨハネは今日のテキストで、神の命令を守ることを教えています。3節～6節には、「神の命令を守る」、「神のみことばを守る」、「キリストが歩まれたように歩む」と書かれていますが、これらは同一の事実です。すなわち、クリスチャンの外側に現れる姿です。
- ・そうない人は口で「言う」ことと、実際の「歩み」がバラバラになります。ヨハネは、そのような人のことを次のように言いました。
1:6 もし私たちが、神と交わりがあると言いながら、闇の中を歩んでいるなら、私たちは偽りを言っているのであり、真理を行っていません。

I ヨハネ

すなわち、「偽り者」です。決して、そうであってははいけません。

- ・皆さん。私たちはキリストの高価な御血によって、神の子とされた者です。神の子とされ、神の国を継ぐ者となりました。その人は ➡ 本物のクリスチャンです。では、本物のクリスチャンとは、どんな人でしょうか。
- ・その人は、神の命令が重荷とならない賢い生き方をする人です。ここで使われている「命令」とは、「掟」、あるいは「戒め」という意味です。神の命令が重荷とはならない人生があるのでしょうか。ヨハネは今日のテキストで、その幸いな祝福を語っています。

2点

大切なポイント**1. クリスチャン・ライフ**

- ・聖書は、人間には「外なる人」と「内なる人」とがあると教えています。

外なる人とは、外部から見える部分です。内なる人は外からは見えません。人間が持っている「心」は、人の内にあります。そして、そこには良心があります。一方、外なる人は時間とともに老いていきます。

2 コリント 4 章 1 6 節は次のように記しています。

4:16 ですから、私たちは落胆しません。たとえ私たちの外なる人は衰えても、内なる人は日々新たにされています。 II コリント

- ・ヨハネが語った神の命令を守るとは、それは内なる人の部分にかかわることです。

1) 命令を守らない「内なる人」

- ・神の命令を守らない人とは、教会には通ってはいますが、内側が変わってない人のことです。その人にとって神のみことばは苦痛となります。1 週間のはじめの日曜日、毎週教会に行くことが苦しくなります。
- ・せっかくの日曜日、自分が思うように事はできませんし、自分の願うように生きられないからです。そして、自分がしたいことを行う自由がないからです。
- ・多くの場合は、人は自分の思うような生き方に、幸福や人間らしさがあるように考えます。もし、神が存在されないとするならば、自分が中心で楽しいかも知れません。しかし自分の欲望に生きるということは、どういうことになるのでしょうか。もう説明は不要でしょう。
- ・人が自分の思いのままに生きるとするならば、必ず混乱が生じます。今の世界がそうではありませんか。神を除いて自分の考え（思想、イデオロギー）で生きようとする人々がいます。違う考えを持つ人とは衝突します。世界の混迷のルーツは、人が神から離れ、自分の考えを主張し、譲らないところに原因があります。
- ・小さいことから言うならば、友人、夫婦、家庭のトラブルがありましよう。それが大きくなれば、民族と民族、そして国と国との戦いとなります。世界の歴史は、その戦いの連続ではありませんか。人類史で、戦争が無かった時代は、何度あったことでしょうか。
- ・しかし、心を落ち着かせて冷静に考えるならば、人はそのような自分の考えに奴隷のように支配され、引きずられ、あるいは洗脳されて生きているに過ぎないことが分かります。
- ・イエスは終わりの時代のしるしとして次のことが起こると言われました。
24:7 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、あちこちで飢饉と地震が起ります。 マタイ
- ・神の命令を守らなければ、秩序の崩壊（自然環境、人間関係、民族・国家間で）が起こります。すでに起こっています。それは実に恐ろしいことです。

2) 命令を守る「内なる人」

- ・しかし、たとえ神の命令を守らない人であったとしても、イエス・キリストに本当に出会うならば、キリストの十字架の御血によって、内なる人が変えられます。

神を知らなかった以前は、無知な生き方をしていた人であっても、イエス・キリストを知った時に変化が起こります。

- ・神の命令とみことばが、その人の内で喜びとなります。神のみことばは、道を照らす光となり、善悪の判断の基準となります。自分の快樂や自己中心は最も忌まわしいものとなります。それは神が成してくださるわざです。
- ・そして神がお語りくださるみことばに従って、歩みたいという願いが起こります。みことばが生活全体を支配するようになります。すると内なる人に変化が起こります。ヨハネは次のように述べました。

5:3 神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。
I ヨハネ

- ・詩篇作者はこう歌いました。
119:162 私は大きな獲物を見つけた者のようにあなたのみことばを喜びます。
119:92 もしあなたのみおしえが私の喜びでなかったらそれなら私は私の苦しみの中で滅んだでしょう。
119:16 私はあなたのおきてを喜びとしあなたのみことばを忘れません。

- ・ですから、私たちの内なる人の歩みは、人の姿を映し出しています。そのように考えるならば、イエス・キリストが十字架におかかりくださったのは、先ず魂の救いに与る恵みでした。しかしそれだけではありません。魂の救いはスタートです。
- ・その次に与えられる恵みは、内なる人が神の祝福を受け成長していくことです。それは「神の国」が、私の歩みにおいても実現することです。人の外側は老いていきますが、内なる人は逆に元気をいただき輝いてきます。本物のクリスチャンとは、内なる人が神の祝福にあずかり、栄光から栄光へと成長していく人のことです。
- ・イエスは内なる人の姿をたとえで話されました。

マタイ福音書7章24節

7:24 ですから、わたしのこれらのことばを聞いて、それを行う者はみな、岩の上に自分の家を建てた賢い人にたとえることができます。マタイイエスは大切なことを教えてくださいました。それは、みことばを聞いて行う人は、岩の上に自分の家を建てた賢い人であるというたとえです。

- ・ヤコブの手紙1章

- 1:22 みことばを行う人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者とな
 ってはいけません。
- 1:23 みことばを聞いても行わない人がいるなら、その人は自分の生まれつき
 の顔を鏡で眺める人のようです。
- 1:24 眺めても、そこを離れると、自分がどのようであったか、すぐに忘れて
 しまいます。
- 1:25 しかし、自由をもたらす完全な律法を一心に見つめて、それから離れな
 い人は、すぐに忘れる聞き手にはならず、実際に行う人になります。こ
 ういう人は、その行いによって祝福されます。
- ・クリスチャン生活とは、岩の上にマイホームを建てる人です。

2. 神の愛が現れる歩み

2:5 しかし、だれでも神のことばを守っているなら、その人のうちには神の愛
 が確かに全うされているのです。それによって、自分が神のうちにいるこ
 とが分かります。 I ヨハネ

1) 神のことばを守る

- ・私たちが神のことばを守る歩みをするならば、神の側から見て、「神の愛が確
 かに全うされている」ことの現れです。神はそれを大変喜ばれます。これまで、
 神の愛（アガペー）を知らなかった者が、神の愛によって救われたことによっ
 て、内なる人が変えられるプロセスに入ったからです。
 - ・ヨハネは次のように述べました。
- 4:9 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得さ
 せてくださいました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。
- 4:10 私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のため
 に、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるの
 です。
- ・私たちの内なる人の歩みは、神の愛を受けて、みことばを守る歩みへと変えら
 れます。そして「神の愛が確かに全うされていく」のです。すなわち、目的に
 達するのです。もし私たちの一部分（たとえば、知識や感情など）が変わった
 だけなら、神の愛は途中で止められていることになります。それは目的が達成
 していないことになります。
 - ・神は私たちに、神の愛が全うされることを望んでおられます。それは、神のみ
 ことばを守ることです。みことばを守るならば、神の愛が全うされていきます。
 私たちがすべきことは、ただみことばを守るだけです。しかし問題は、神のみ
 ことばを守らない自分の存在です。

- ・では、みことばを守るとは、どういうことでしょうか？

2) イエス・キリストにならう

ヨハネは次のように述べました。

4:12 いまだかつて神を見た者はいません。私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにとどまり、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。

- ・肉を宿としている私たちの内には、アガペー愛を実践できる自信は全くありません。不可能です。しかし、クリスチャンは聖霊の助けをいただき、そのアガペー愛を行う者とされるのです。なんといい幸運でしょうか。その人こそ、本物のクリスチャンです。

- ・ヨハネはこう述べました。

2:6 神のうちにとどまっていると言う人は、自分もイエスが歩まれたように歩まなければなりません。 I ヨハネ

- ・神を信じ、神との交わりにある人は、具体的には師であるイエス・キリストにならうことです。イエス・キリストは人としての地上の生活で、罪を犯さなかった以外は、私たちと同じ生活をされました。弱さも試練も経験されました。涙も流され、悲しみも痛みも経験されました。

- ・神が人の姿をとって来臨されたのが、イエス・キリストです。

ヨハネ福音書

14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。ヨハネ

- ・ヘブル人への手紙には次のように書かれています。

4:15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ヘブル

- ・イエスは確かに模範を示してくださいました。

2:21 このためにこそ、あなたがたは召されました。キリストも、あなたがたのために苦しみを受け、その足跡に従うようにと、あなたがたに模範を残された。I ペテロ

- ・聖書は次のように勧めています。ヘブル人への手紙

12:2 信仰の創始者であり完成者であるイエスから、目を離さないでいなさい。この方は、ご自分の前に置かれた喜びのために、辱めをものともせず十字架を忍び、神の御座の右に着座されたのです。

ま と め

主 題：「命令は重荷ではありません」

—神の愛—

- 主は今朝も私たちにお語りくださいました。生ける真の神を信じる私たちは、どのように歩むべきでしょうか？それは主イエスが言われたように、岩の上に、自分の家を建てる賢い人のように歩むことです。
- 具体的には、どういうことでしょうか。みことばは、次のように述べています。
 2:5 しかし、だれでも神のことばを守っているなら、その人のうちには神の愛が確かに全うされているのです。それによって、自分が神のうちにいることが分かります。
 I ヨハネ
- 神のことばを守ることが大切です。しかし、それは決して重荷ではありません。なぜなら、イエス・キリストが全て十字架で背負ってくださったからです。キリストの十字架を受け入れた人は、内なる人が神の恵みによって成長し、神の幸いが現れる人と変えられていきます。それは神はなされるわざであり、なんという幸いではありませんか。

*God bless you!